

児童会役員の自主的・実践的な態度を育てる指導の工夫

—インフォーマルな活動（児童会まつり）の企画・運営を通して—

浦添市立浦添小学校教諭

細 田 幸 弘

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の内容	2
1	特別活動について	2
2	児童会組織	2
3	児童会役員が身につけたいリーダーシップ	4
4	児童会役員のメンバーシップ（フォロアーシップ）	4
5	教師の支援	5
V	児童会活動実践	12
1	題材	12
2	題材設定の理由	12
3	支援の経過	12
4	ゲームの内容	16
5	当日の係	16
6	児童会まつりの展開	17
7	児童会役員の感想と考察	18
VI	研究の成果とまとめ	20
1	研究の成果	20
2	今後の課題	20
3	おわりに	20
	参考文献	20

児童会役員の自主的・実践的な態度を育てる指導の工夫

ーインフォーマルな活動（児童会まつり）の企画・運営を通してー

浦添市立浦添小学校教諭 細田 幸弘

【要約】

本研究は、小学校の児童会活動を通して、インフォーマルな活動を展開していき、児童会役員の自主的・実践的な態度を育てる指導の工夫を目指したものである。

児童会役員が各自の思いや願いと全校児童の気持ちを考え、インフォーマルな活動（児童会まつり）を企画・運営してきた。

その結果、児童会役員は学校生活の充実と向上を図る児童会活動の趣旨を理解し、活動を通して自主的・実践的な態度の育ちが見られた。

キーワード □児童会活動 □自主的・実践的な態度 □インフォーマルな活動
□リーダーシップ □メンバーシップ（フォロアーシップ）

I テーマ設定の理由

現在、わが国の急速な社会変動の中で、家庭、地域、学校の教育力や連携が弱まってきている。家庭では、少子化や核家族化によって生活体験の減少、親の放任、過保護、過干渉といった傾向がある。地域社会では、連帯感がなくなったり、生活、自然、遊びの体験の場が失われてたりしている。そのため、学校教育へ、過度に依存する傾向がみられるようになってきた。しかし、学校でも「ゆとり」というものがなくなり、充実感や満足感を味わえない場になりつつある。

児童会活動においても、児童の生活体験不足や学校での「ゆとり」のなさから、学校行事の補佐的役割を果たすだけが精一杯で、児童が主体的に活動している場が少ない。

このような環境の中、児童がこれから生きていくための資質や能力の育成を重視していかなければならない。すなわち、これからの社会において生じると予想される、さまざまな問題に対して、何が課題であるかを見だし、自ら考え、主体的に判断し、解決できる能力の育成を図ることが大切である。

学校教育の中で、そのような能力を育成していくのは、特別活動が有効であると考えられる。特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた

発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てること」が目標になっている。また、児童会活動の内容は、「学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動を行なうこと」である。学校において集団活動を通して行なわれる特別活動は、自主的・実践的な態度を育てる活動であり、特に児童会活動は全校児童の協力で実践していくため、さらに人間関係も深めていくことができるであろう。

そこで、児童会活動の中心的役割を担う児童会役員に焦点を絞り、本来児童が持っている思いや願いを引き出し、今までの児童会活動の枠に囚われないインフォーマルな実践をしていく中で、充実感や満足感を味わい、自主的・実践的な態度を育成したいと考え本テーマを設定した。

II 研究の目標

児童会活動の中で、主体的に運営していくインフォーマルな活動の場を設定し、児童会役員の自主的・実践的な態度の育成する指導法を探求する。

Ⅲ 研究の仮説

1 基本仮説

児童会役員が興味・関心を持っている活動内容を、実行できるように、教師が支援を行なうことによって、自主的・実践的な態度が育つであろう。

2 作業仮説

- (1) 児童会役員が興味・関心を持っている内容を引き出し、インフォーマルな実践の場を設定し、活動内容を企画、運営、反省と繰り返していくことによって、自主的・実践的な態度が育つであろう。
- (2) 児童会活動を展開していく時、教師の適切な支援で、児童は充実感や満足感を得ることができ、自主的・実践的な態度が育つであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 特別活動について

学校は、社会生活の発展に伴って要請されるさまざまな教育的機能を、的確に表現できるものとして期待され、フォーマル（意図的、組織的、計画的、画一的）な教育を行なう中核の場として存在してきた。しかし学校教育は、本来、社会の教育的機能の一部を分担するものであり、そのすべてを負うことは不可能である。このように、現在の学校において、すべての教育的機能を担うことが、明らかに限界であることが分かり、人間の社会生活における教育的機能の回帰として「生涯学習」が叫ばれる時代になってきている。そのような社会変化に伴い、学校教育のあり方も見直されている。その見直しのひとつとして現在導入されている月2回の週5日制は、学校に学習内容の精選を求め、時間的、内容的にも苦しい現状がある。これからは学校だけでなく、家庭や地域における教育のあり方も考えていかななくてはならないだろう。

小学校においては、学習指導要領総則に「学校の教育活動を進めるに当たっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」

と記されている。

ここでは主体的に学ぶ力を身につけさせていく事が、大切になっている。主体的に学ぶとは、他からの指示ではなく、自らの意志・判断によって意欲的に学ぶことである。学校教育において、このような力を教科のみでなく、児童の生活体験と関わりが深い特別活動でも重点的に指導するのが、より効果があるものと考ええる。

しかし、現在の特別活動は教師主導型が多く、児童が主体的に活動している状況は少ないのではないだろうか。学級活動では、教師が作成した計画どおりに進めたり、クラブ活動では、活動場所や教師の都合によるクラブ運営や放任的指導の下で活動が行なわれたりし、目的がはっきりしていない場合もある。そうすると児童にとってもさせられている気持ちが大いだろう。さらに委員会活動においても、委員会の必要性や重要性を児童が自覚せずに活動していることが多く、一部の児童や教師に任されているのが現状ではないだろうか。

これからの特別活動は、受動的な実践活動を中心にするのではなく、計画→実践→反省→計画といった活動を積極的に繰り返していき、児童の自主的・実践的な態度を育成したい。特に、これまで教師主導で行なわれてきた計画・反省の部分を、児童主導にし、児童の思いや願いがかなう活動にしていきたい。

2 児童会組織（図1）

本校の児童会組織は、学級、委員会、実行委員会と連携をとりながら運営されている。

(1) 代表委員会

4年生以上の各学級の正副委員長、各委員会の委員長および児童会役員で構成されている。定例会として月2回（第1・3木曜日）行なう。1回目は運営委員会や委員会、学級からの提案に関する話し合いを行ない、2回目は学級活動、委員会からの活動報告および要望に関する話し合いを行なう。要望は、内容によって次回の代表委員会の提案になることもある。

このように確実に定例代表委員会を開くことによっ

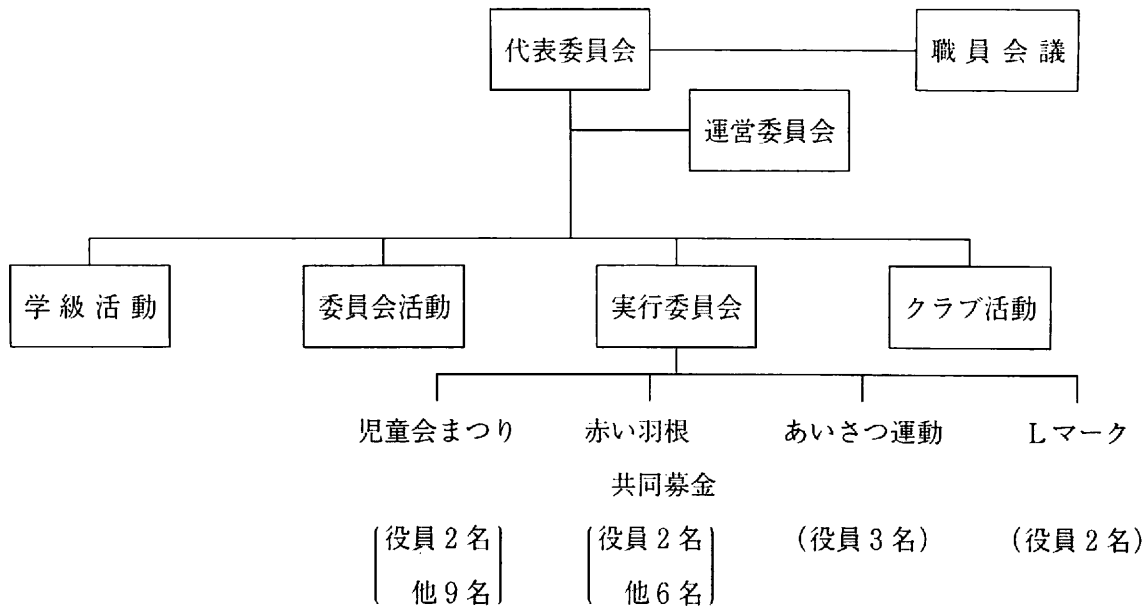


図1 浦添小学校児童会組織

て、各機関との連携を密にしている。また、必要に応じて臨時に開かれることになっているが、今年度は計画的に実施しているため、臨時代表委員会は一度も開かれていない。

課題として、各学級の代表委員が、毎学期入れ替わり、引き継ぎが難しいことや、各委員会に直接関係しない内容が議題として多くあり、各委員会の代表委員が、積極的な話し合いを展開できないことが挙げられる。

(2) 運営委員会

児童会役員が話し合いをする場である。本校の児童会運営は、この運営委員会を中心に進められている。児童会役員が学校の現状に目を向け、今後の児童会活動のあり方を話し合う。また、児童会役員の思いや願いを出し合い、お互いの意志疎通も図っている。定例運営委員会は、毎週月曜日に行なわれている。

課題として、中心となって活動する児童（リーダー）が固定されてしまい、児童会役員全員が主体的に活動できていない部分もあることが挙げられる。

(3) 実行委員会

代表委員会で実施が決定した内容の中で、委員会や学級で対応できないものを、実践するための組織である。児童会役員を何名か担当として配置し、4年生以上の希望者で構成するインフォーマルな組織

である。活動時間も、自分たちが必要と思った時に集まって活動している。

児童会役員にとって、自分がやりたいと思う内容を実践することができ、実行委員会組織をまとめたり、活動を企画・運営していくことで、自主的・実践的な態度を育てている。

現在導入したばかりだが、児童会まつり実行委員会の頑張りが目立っている。

課題としては、実行委員の活動が全校児童に十分理解されてなく、運営していくための実行委員の人数不足が挙げられる。

① 児童会まつり実行委員会

毎週金曜日の昼休みを使って、体育館でイベントをしている。ゲーム、お笑い大会など全校児童が楽しめ、授業や通常の児童会活動ではなかなかできない内容を実行している。自由参加の形態をとっているが、毎回多くの児童が集まっている。

② 赤い羽根共同募金実行委員会

11月から1月にかけて、赤い羽根共同募金の活動を行なった。児童朝会での劇、ポスターなどで全校児童へ呼び掛けをし、11万円も募金を集めた。また活動報告会では、全校児童が募金に使った空き缶を、体育館の舞台に並べるなど工夫をして、全校児童の協力に対して感謝の気持ちを表していた。

③ あいさつ運動実行委員会

「明るく、元気な浦添小学校にしよう」とあいさつ運動を展開した。前年まで、児童会役員だけがやっていた玄関前での朝のあいさつ運動を、細かな計画を立て、全校児童参加の形にして実行した。

④ Lマーク実行委員会

世界の名画レプリカがもらえる企画である。4ヵ月間全校児童に呼び掛けて、11月にモネ作「アルジャントゥーユの橋」を手に入れた。その間Lマークの回収や台紙に貼るなどの作業を地道に続けた。現在も、来年に向けて回収や呼び掛けなどを続けている。

(4) 委員会活動

学校生活の中で欠かすことができない活動を、委員会活動として位置づけている。本校は6年生が全員で分担し、給食、図書、保健、体育、園芸、生活美化、飼育、放送そして運営の9つで構成されている。

3 児童会役員が身につけたいリーダーシップ

集団活動を行なう時、必ず課題や仕事があり、それらの課題を達成させたり、完成させたり、仕事を遂行したりしなければならない。そのためには、リーダーが必要となり、自然発生的に生まれてくるものである。子どもたちにとって、課題は、仲良く遊ぶことや学習を進めること、みんなの意見をまとめること、学校生活を高めていくことなど、ひとつを解決しても次々と出てくる。このような遊びの場面、生活の場面、学習の場面などにおいて、さまざまなリーダーが生まれてくる。

リーダーが持つべきリーダーシップとは、楽しくいきいきとした集団活動を行なえるようにメンバーへの心くばりをし、メンバーと共に気持ち良く課題に向けて取り組み、達成していく力と考える。それらの内容を挙げてみる。

(1) 現状（現実）を理解する。

子どもたちの学校生活の中には、課題、問題、仕事など解決しなければならないことが数多くある。

また、学校全体で頑張っていることや良いところなども数多くある。

児童会役員は、それらをいろいろな角度から見つめ、現状を理解する。そして、自分たちにとって、学校にとって、児童会が取り組むべき事を自主的に取捨選択することが大切である。

(2) 自分や他人の事を考える。

児童会活動は、一人ひとりの思いや願いが活かされる活動である。児童会役員自身（自分）の思いを出せる場にし、全校児童（他人）や学校のことも考え、思いやる気持ちを持ち続けることが必要である。それが、自分たちの力で課題を解決していこうとする原動力になる。

(3) 課題（問題）解決に向けて方策を考え、計画を練る。

児童会活動は、全校児童による活動である。そのため、全校児童に学校の課題を理解してもらい、それぞれが今ある課題を、自分たちの問題としてとらえ、協力して実行していかなければならない。

それには、綿密な計画と、より効果的な方策を考えることが必要である。

(4) 計画を実行（実践）する。

課題解決に向けて創り上げてきた計画を、目的を忘れず、確実に実行（実践）しなければならない。実行することによって、全校児童が満足感や達成感を得ることができる。また難しいことだが、実行段階で起こる予期せぬ出来事に対して、臨機応変に対応することも大切である。

課題を解決した満足感と反省点をふまえ、次の活動に向けて意欲的に取り組んでいく姿勢を持ち続けることも重要である。

4 児童会役員のメンバーシップ（フォロアーシップ）

特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。」である。この目標こそメンバーシップを育てることを表現しているのではないだろうか。

メンバーシップとは、集団（グループ）の一員であることを自覚し、正しいことをしっかり見つけ、判断し、協力して課題を達成していく力と考える。それらの内容を挙げてみる。

(1) 児童会役員として、自分の必要性を自覚する。

所属する集団にとって、自分が必要な存在であることを自覚する。自分にとっても、この集団が必要なものであることを自覚する。

児童会役員という集団の一員であることを、自覚することによって、所属感（自分の存在価値、居場所）が生まれ、精神的な安定感を持てるようになる。

(2) メンバーどうしが信頼関係を持つ。

集団の中で、それぞれが自分の考えや気持ちを自由に表現できる雰囲気をつくることによって、本音の話ができ、心の共感（信頼関係）が生まれてくる。

それが、お互いに協力する気持ちや課題に取り組む姿勢など良い方向につながり、活気あふれる児童会活動が展開できる。

(3) 児童会活動の目的を認識する。

集団活動で発生する課題や仕事を行なう時、目的や目標など何も考えず、ただ指示どおりに行動したり、全く行動できなかつたりするメンバーが多い。メンバー全員が、目的意識を持って行動しなければ、課題達成は難しい。

児童会活動では、「全校児童が、学校生活の充実と向上のために活動していること」を、役員が認識しておく必要がある。そして最後には、全校児童が認識できるように努力する。

(4) 児童会役員として、責任を持つ。

メンバーが集団の目的を認識すれば、目的達成に向けてそれぞれの役割が出てくる。その役割を責任持って行動していかなければならない。

メンバー全員が責任を果たすことによって、集団として機能し始めるだろう。

児童会活動では、役員が責任を持つことは当然であるが、学級や委員会にも責任を持って行動することが望まれる。

5 教師の支援

児童会活動を担当する教師として、児童を「指導

する」という気持ちで取り組むのではなく、「支援する」という気持ちを、特に意識している。「支援する」とは、学習者である児童主導（主体）に進められ、教師が支援者という立場をとる。それに対し「指導する」とは、指導者である教師主導に学習を進めることだと考える。

まず支援の内容に入る前に、支援する教師の姿勢について考えてみる。

(1) 児童と児童会活動の可能性を認める。

児童会活動は、ともすれば前年度の活動をそのまま引き継がれることがある。全校児童に関わる活動だから、変更するのは難しいと考える向きが多いようだ。しかし、児童会活動は、学校生活の充実と向上のために行なわれる活動である事を踏まえておけば、児童の実態に合わせたいろいろな活動を、展開できる可能性が秘められている。教師が、児童の豊かな発想や創造力、児童会活動で育てられる主体性やさまざまな企画をする力など大きな可能性があると考えた事が必要である。

(2) 児童との信頼関係をつくる。

児童との信頼関係をつくることで、お互いの意見を尊重することができ、児童会活動がスムーズに運営される。そのためには、児童に対して的確なアドバイスをすることも大切なことであるが、時には子どもの視点で意見を述べることも必要である。その両面を持ち合わせることによって、教師の指示を待つだけではなく、児童も自分の意見が言え、他人の意見を聞ける雰囲気を持つ児童会組織をつくることができる。

(3) 発想の柔軟性を持つ。

教師は、これまでの学校や児童会の活動の枠に囚われる傾向がある。学校教育では、ある程度の枠は必要であるが、枠に囚われすぎているために、児童の自主性や実践力が育たないひとつの原因になっていると考えられる。教師が柔軟な考え方を持つことができれば、児童会活動は大きく変化するだろう。

しかし、児童の考えが常識的に見て、大きく逸脱したときは、新たな可能性を模索しながら、修正していかなければならない。

支援する教師と児童が、お互いに成長していく姿

勢を持ち続けていくことが大切だと考えている。これらを踏まえながら、支援の内容について考えてみる。

① インフォーマルな活動の場を提供する。

学校教育は意図的、組織的、計画的、画一的な教育形態を持つ、フォーマルな教育である。このようなフォーマルな教育形態で、児童の自主性や実践力を伸ばしていくことは難しい部分がある。現在、児童会活動も、学校教育の中でフォーマルな活動になってきている。

そこで、児童会活動の中で、希望する人が、やりたい活動を、自由な時間を使って、自分たちで活動していく、インフォーマルな活動の場を提供することができれば、意欲的に取り組み、自主的・実践的な態度が育成されると考える。

本研究の内容を考えると、インフォーマルではなく、意図的、組織的、計画的、多様な教育形態を持つノンフォーマルな教育と表現すべきであるが、児童一人ひとりの可能性を大切にする家庭教育のような教育活動を展開したいという願いも含め、意図的、多様的そして一部組織的な教育形態を持つインフォーマルな（教育）活動と表現している。

実践例 1

本校では、実行委員会がインフォーマルな組織といえる。4年生以上で希望する人が集まって組織され、運営されている。興味があれば続けても良いし、興味がなくなれば続けなくても良い。最低条件として、ひとつの活動が終わるまでは責任を持って活動してもらっている。

また、実行委員会のひとつ「児童会まつり実行委員会」は、児童会まつりの中で楽しめる遊びを展開していく集会活動だが、毎週金曜日の昼休みを使い、全校児童が自由に参加できる、インフォーマルな活動になっている。

② 教師が見本を見せる。

児童会役員の活動は、児童にとって自分たちだけで実行することが難しい内容が多い。中でも、児童が一番苦しむのは、代表委員会や運営委員会で話し合いを進めたり、まとめたりする議会運営だろう。

児童会役員が行なう議会運営は、学級活動で行なわれる話し合いとは内容の質や量が異なるものが多く、これまでの学級活動のやり方が通用しないことがある。また、児童朝会などの集会活動の運営も難しいものだろう。その上、児童は失敗をおそれたり、完璧を目指したりするので緊張感が漂い、そのことが困難にさせる原因の一つにもなっている。

そこで児童が難しいと感じる内容は、教師の見本を見せることが大切になる。しかしその時に、教師のものが完璧ではなく、工夫・改善の余地があることを理解させている。

子どもは「模倣（マネ）」をして育っていく。教師が、いろいろな意味で呼び水になっている。

実践例 2

新児童会役員が選出された頃、代表委員会や運営委員会の議長を、まずは教師が行ない、次は議長を児童にし、副議長を教師が担当したりして徐々に児童に任せていく。子どもたちの活動であるため実践の場面で教師は前に出ないことに決め、先に指示を出しておくだけというのでは、なかなか伝わりにくいものがあるし、実践力もつきにくい。

同様に、議事進行のシナリオづくりや提案書の作成なども、議事進行をスムーズに行なうためには必要であり、最初は教師が作成し見本を見せる。

そして、児童会役員みんなで教師の見本を振り返り、児童が実践する時に注意すべき点を明らかにしながら、自分たちで実行していく。

③ 「待ち」の姿勢を持つ。

児童会活動を運営していく中で、児童が大きな壁にぶつかることがある。その壁は、自分（児童）だけで解決できる壁と、教師の支援が必要な壁がある。教師はそれを見極めなければならない。

自分たちで解決できると予想されるものは、できるだけ待って、児童の動向を見守りたい。

教師の支援が必要なものは、学校や教育課程で行なわなければならないことや時間的な制限、外部の協力（地域の人たちや場所）が必要といった「物質

的な規制」が存在する時である。また、焦点がはっきりせず、堂々巡りで解決できない話し合いや、児童会活動として、児童全体の利益にならない内容を話し合い続けるといった「児童による解決の限界」の時も、支援が必要になる。

しかしながら、教師はそれらを見極めたとしても、児童による活動をぎりぎりまで「待ち」、さまざまな角度から可能性を模索させるほうが良いだろう。そして、支援する時も、タイミングを計って、行なわなければならない。

また、児童が活動の成功を喜び、意欲を持たせることも大切だが、時には失敗をして学ばせることも必要だと考える。失敗させるまで「待つ」のは少し勇気があるが、児童にとってどちらが良いか判断して「待つ」場合がある。しかし、失敗した時、教師が適切な支援を行なわなければ、意欲は失われていくので注意している。

とにかく、教師は手を出したがり、教えたがるものであるが、「待つ」ことも非常に大切であると考え

実践例3

運営委員会の話し合い活動では、よく意見が止まることがある。時間的に余裕がある時は、その場で時間を作ったり、次の運営委員会までに考えておくことにしている。この程度「待つ」と児童は、日常生活の中からヒントを得て、豊かな創造力を見せてくれる。

例えば、児童会まつりで行なう新しいゲームを作ったり、赤い羽根募金活動の広報では、朝のあいさつ運動と並行して、ポスターを首から掛けたり、呼び掛けの幕を玄関に掲げたりいろいろなアイデアが出てきた。少し「待つ」ことによって、大きな収穫を得ることができる。

また、児童会まつりでは、計画のミスで人が集まらない事が一度あった。その後、自分たちの失敗を踏まえながら、現在は多くの人たちを集め、活気ある活動を展開している。

④ 確実な計画を立てる。

学校行事や児童会行事などの行事が近づくと、あ

わてて活動し、終わってしまうと、活動がなくなる児童会活動が多く見られる。このような活動では、児童が疲れただけを感じ、新たな活動への活力にならないだろう。

教師が先を見据えた計画を持ち、児童と共に現状を踏まえ、常時活動として、計画を立てて実践していくことが大切である。

計画を立てるのも、教師主導ではなく、児童主導で運営することを忘れず、児童が次のステップ（活動）へと意欲的に進みたいと思うような活動をするためにも、教師は計画的に運営していかなければならない。

実践例4

本校の代表委員会は第1・第3木曜日の月2回行なわれる。第1週は運営委員会や各委員会からの提案、第3週は学級・委員会からの活動報告と要望である。

代表委員会は、運動会や集会活動などの行事がある時だけ臨時で何回も開かれることが多いが、本校は定例代表委員会で行事に関する話し合いもこなしている。変更があるとしても、第3週の活動報告会が提案になるくらいである。

もちろん、教師が確実に長期的な計画を立てているが、最近は児童も先を見ながら進められるようになってきている。

⑤ 体験活動を重視する。

各教科で体験活動が重視されてきているように、児童会活動でも直接体験が重要である。

児童会役員の活動としては、代表委員会や運営委員会での議長としての議事進行やそのシナリオづくり、記録のとり方、提案者としての提案書の作成などの「話し合い活動」に関することがある。同様に、児童朝会（集会活動）での司会、運営、計画、準備や常時活動のあいさつ運動の運営などの「実践活動」に関することもある。そして、それらの内容を全校児童に知らせていく「広報活動」もある。また話し合いや実践、広報などの活動後には、「反省」や「新たな企画、計画」など数多くの活動がある。児童は、これらの活動を繰り返し実践していくうち

に、活動のポイントや自分なりのやり方をつかんでいく。そのためには、本番の活動だけでなく、練習を行なう場も確保し、自信をつけさせていく体験活動も重視している。

そして今後は、代表委員や実行委員として話し合い活動などを体験している4・5年生の中から、児童会役員が選出されると、次年度からの活動が容易になるだろう。

実践例5

体験活動を多く積み、自信を持たせながら活動するには、練習（リハーサル）を行なうことが良い。代表委員会の前には運営委員会で練習し、提案書を練り直し、話し合いの「はしら」を明らかにしてから臨む。

しかし、常時活動ではなかなか議事進行を数多く体験し、理解するのは難しいので、夏休みに児童会役員研修を行なった。内容は、提案書づくり、議事進行シナリオづくり、議長練習、話し合いでの意見の述べ方やポイントの聞き方などである。（表1、2、3、4、5）

表1 児童会役員研修の日程

1	期日	平成9年8月11日～12日
2	場所	沖縄県立玉城少年自然の家
3	日程	
		8月11日
	8:30	浦添小学校集合
	10:00	オリエンテーション
	10:30	提案書づくり
	13:00	話し合い計画づくり
	15:00	レクリエーション研修
	16:00	記録のとり方
	19:00	議会の進行の仕方
	20:00	運動会の整理体操づくり
	21:00	交流会
		8月12日
	9:00	議会実践
	13:00	今後の活動計画
	16:30	浦添小学校解散

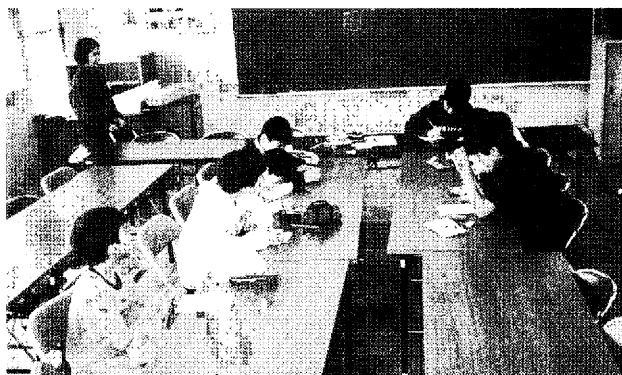


写真1 提案書づくり

表2 研修会で出された提案

- ろうかをゆっくり歩こう
- お笑い大会をしよう
- 緑をもっとふやそう
- いじめをなくそう
- 児童会まつりをしよう
- 学校のきまりを守ろう
- 物を大切にしよう（表4、5）
- みんながもっとあいさつできるようにしよう
- 5分前行動をしよう

表3 代表委員会、運営委員会の約束

1. 自分の意見を必ず持つ
2. 自分の意見はみんなに発表する
3. 他人の意見は最後まで聞く
4. 楽しく話し合えるようにみんなで努力する
5. 発言は、はっきりと分かりやすく言う
6. 全員が発言できるように、みんなで努力する
7. 決まったことは、必ず実行する
8. 議題からはそれないようにする

表4 研修会で出された提案書

(代表委員会)		方法				
議題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物を大切にしよう！</div> 提案者 小倉 一紗 提案理由 平成9年8月11日(月)		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">日時</td> <td>2学期の児童朝会</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td>体育館</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●美化委員が、忘れ物を何日かに分けて各クラスにまわして持ち主をさがす。 ●児童朝会と美化委員で協力し、児童朝会で物を大切にしようよびかける。 ↓やりかた ●1学期の朝会でやった劇をする。 ●忘れ物や落とし物を人のように例えて、物の気持ちを感じてもらう。 ※大きな紙芝居でやっても良い。	日時	2学期の児童朝会	場所	体育館
日時	2学期の児童朝会					
場所	体育館					
1学期最後の代表委員会で美化委員から「忘れ物や落とし物が多く、忘れ物コーナーに物があふれていた。」という反省があった。 そこで、美化委員と児童会役員が協力して朝会で「物を大切にしよう」ということを主張し、物を大切にしようにしてもらうために、この議題を提案しました。						

表5 研修会で作成した議会進行シナリオ

分担	役割	時間	話し合いのめあて	議題	提案理由	第 回
秀太郎	議長	計	自分の意見ははっきり言う	物を大切にしよう	みんなが物を大切にしないので、朝会で劇をして、物を大切にしようと思いを提案した。	代表委員会 8月12日 火曜日 9時00分(場所・玉城少年の家)
	副議長	画				
	議長	内				
	ノート記録	容				
	黒板記録					
一紗	提案者	準備				

⑥ 児童会役員としての責任と義務を理解させる。

常に、児童会役員として、自分たちの学校生活の充実と向上ための活動であることを理解させ、責任と義務が存在することを認識させる。そのためには、教師が常に児童会活動の目的を意識しながら、支援を行なうことが必要である。

児童が児童会役員の責任と義務を認識することによって、自分たちの活動の必要性と重要性を理解し、誇りを持って活動することができる。

しかし、児童が責任と義務を負担に感じるような時は、教師が支援し、負担を軽減させていく必要がある。

実践例 6

児童会役員には、

1. 自分たちは、学校の中心的役割を担い活動している。
2. 自分たちで、学校を良い学校にしていくことも、変えていくこともできる。
3. 全校児童の事を考えて活動する。

事を、忘れないように心がけて、常に活動させている。

そのため、児童会役員は特に低学年が参加できるような配慮をいつもしている。朝のあいさつ運動を全校児童参加にして、各学級ごとに玄関で活動させたり、赤い羽根募金の説明は、給食時間に低学年の教室を回ったり、廊下を走って低学年がケガをしないように委員会や学級に呼び掛けたりしている。当初は、教師の働き掛けが必要だったが、今では児童の側から自然に意見が出てくる。活動中も、児童会の目的と目標を忘れず、責任ある行動がとれている。

また、義務を果たすということで、公約実現を挙げている。児童会役員が立候補した時の公約を児童会室に掲示し、それぞれが公約実現に向けて努力してきた。例えば「緑の多い学校にしたい」という公約を掲げ、園芸委員会と連携をとり「緑のコンクール」を行なったり、「あいさつができる学校にしたい」と掲げ、各学級に2日ずつ割り当てをして全校児童による朝のあいさつ運動を実施をしたり、「お笑い大会を

する」と掲げ、児童会まつりの中で大会を開いたりした。

それぞれが自分の思いをあきらめず、責任と義務を自覚しながら活動し、その結果として実現できたと考える。

⑦ 学校外の団体との交流による意識改革を図る。

自分たちの活動に集中しすぎて、学校全体や全校児童のことが、見えない時、気づかない時がある。

そのようにならない一手段として、外部との交流がある。交流した団体の良いところを発見し吸収することによって、自分たちの活動を客観的に見つめ直すことができ、マンネリ化や自己満足になりがちな活動から脱皮し、新たな活動が展開される。

実践例 7

夏休みの児童会役員の研修に浦添市ジュニアリーダー（市内の中高校生で構成され、子ども会の運営協力を中心に活動している）と内間青年会（エイサーなどの活動を通して、地域との連携を図りながら、積極的な活動を展開している）の人たちに2人ずつ参加してもらい、さらに、11月には浦添市ジュニアリーダーのレク研修に参加させてもらった。

異年齢者（児童にとっては年長者）との交流なので、お互いに良い刺激を受け、自分たちももっと頑張っていこうという気持ちの盛り上がりが見られた。（表6、7）

表6 浦添市ジュニアリーダーの研修に参加した児童会役員の感想

(1) 刺激を受けた部分

- ①レク研修は、途中から参加したけれど、とてもなじみやすかったし、気軽に話しかけたり、話したりして、すぐに仲良しになれた。
- ②浦添の中高校生が、こんな活動をしているなんて知りませんでした。
- ③ジュニアリーダーの人たちは、いろいろなゲームをしたり、話し合いなどして、楽しそうでした。そして、みんなで協力して進めていくので、

「すごいな」と思いました。

④初めて出会ったいろいろな人たちと、遊ぶことができ、とても楽しかった。レク研修をすると、いろいろな人たちと友達になれるからいいな。

⑤私の知らないゲームや、初めて出会った人と友達になれるようなレクを教えてもらって、とても勉強になりました。

(2) 意欲的な部分

①ジュニアリーダーのことは、一部の人しか知らないなので、新聞などを発行して、浦添小学校のみんなに知らせたらいいと思う。

②今回の研修会みたいなものに、定期的に参加したら、レクの仕方や会議の仕方も身につくのでいいと思います。もう一度、研修に行きたいです。

③今回学んだことを、学校に持ち帰って、学級のお楽しみ会や児童会まつりなどで利用してみようと思う。

せ、注目させる技を持っているのです。

⑦一つの課題に対する子どもたちの意見が、一人ひとり全然異なるのには、驚きました。大人でも考えつかないような事を、考えることができるのです。それが、正しいとか間違っているとかではなく、自分の意見を持ち、その意見に対して、しっかりとした自分の考えを持っているのです。

⑧子どもたちが、自分の意見に対して、もう一度自分自身に、問いかけているのが分かりました。うわべだけの意見ではなく、自分の意見に自分自身で問いかけ、その根拠を一生懸命見つけているのが、子どもたちから伝わってきました。

⑨子どもたちはこのような事を勉強しているうちに、成長するものだと思います。

⑩子どもの無限の可能性を知ったような気がします。

(2) 意欲的な部分（児童会役員に対して）

①みんなは児童会役員としてたくさんの事を学んでいると思います。これからも、それを役立ててください。

②今までの研修や児童会活動を糧にして、これからもがんばってください。

③この研修に参加して、本当に良い体験をし、私自身も勉強になり良かったです。

(3) 教師の支援の部分

①児童会の研修といっても、先生が一方向的に話をし、授業の延長のようなものだと思っていました。しかし、先生と子どもたちがディスカッション形式で話を進めているのが良かったです。

②研修の中身の濃さや先生方の話の進め方が、とても上手なのに驚きました。

③この研修は、小学生だけでなく、中学生、高校生にも通用する内容だと思いました。

④先生方が、子どもたちの考えを言葉巧みに導き出していた。

表7 児童会役員研修に参加した高校生、青年会の人たちの感想

(1) 刺激を受けた部分

①小学生の研修なので、ゲームをしたり、これからの行事について話し合いをするのかなと簡単に考えていたが、始まると自分の意見を言ったりする討論会みたいでした。

②児童会役員みんなは、活発に発言したり、質問したりと、小学生とは思えず、感心しました。

③自分の小学生の頃を思い出すと、もっと幼かったような気がした。

④研修が始まると、みんなの目が真剣になって発言する内容が小学生とは思えません。

⑤私も、どんどんこの子たちの世界に引き込まれていきました。

⑥物事を表現したり、みんなに分かりやすく説明したりするのが、上手なのです。人を集中さ

V 児童会活動実践

1 題材 児童会まつり

2 題材設定の理由

児童会活動は、学校行事など行事の時に、集中的に行なわれることが多く、行事のために児童会活動が行なわれている感じがする。そのため、児童会役員たちがやりたい活動や全校児童のニーズに合った活動とかけ離れている場合が多い。

そこで本年度は、常時活動を中心に、計画、実践、反省を繰り返しながら、児童会役員、学校、全校児童のニーズに答えられる活動を検討し、実践してきた。

本題材は、全校児童が興味・関心を持つと考えられる内容（遊び）を、強制的な参加の形態ではなく、希望者が参加する、インフォーマルな形態で展開するものである。それによって、これまでの児童会活動では展開が難しかった内容でも、実現することができ、児童会役員の願いや思いがかない、さらに自主的・実践的な態度が育つと考え、本題材を設定した。

(1) 題材について

「児童会まつり」は、2年前の児童会役員が実施

に向け、検討を続けていた内容である。授業時間を使って、かなり大がかりな活動を計画していたため、なかなか実践に結びつかなかった。しかし、今回、児童会役員たちの企画力と発想の転換によって実践に結びつけた。

(2) 児童会役員について

児童は、「遊び」という子どもたちの文化活動に高い関心を持ち、多くの友達と遊びたいという気持ちを持っている。しかし、学校生活の限られた時間と空間の中で実現することも、願いを表現することも難しい状況であった。

また、児童会役員は、役員に選出された当初から「明るく、楽しい学校にしたい。」という思いを持ち続け、「遊び」を通した児童会活動の展開を考えていた。その気持ちを実践できる題材のひとつとして、提案されたものである。

(3) 指導について

児童会活動は児童による自治的活動であることを認識させ、全校児童のことを考えた計画を立てている。その時に、今までの概念に囚われない考え方を身につけさせ、あらゆる可能性を見だし、実践させている。

3 支援の経過

月 日	児 童 の 活 動 内 容	教 師 の 支 援
8月11日	児童会役員研修 「児童会まつり」「お笑い大会」提案	朝会や授業時間などで行なうのは難しいので、2つの内容を45分の休み時間などを利用してできないか検討をうながす。
10月27日	運営委員会 「児童会まつり」提案（表8） 承認され	代表委員会に向け、提案書の修正をさせる。
	11月6日第13回代表委員会議案に決定 第13回代表委員会の役割決定 児童会まつり実行委員会設置を確認 児童会まつり担当役員決定	代表委員会の係分担を話し合わせる。 議長に、話し合いのはしらなど議案書、議会進行シナリオの作成を指導する。
11月4日	議案書を代表委員に配布（表9）	実行委員会の仕事内容を具体的に示すように指示を出す。

表8 児童会まつりの提案書

(代表委員会)		方法	
議題		日時	毎週金曜日の45分休み
児童会まつりをしよう		場所	体育館
提案者 比嘉 育志		11月14日・21日 跳び箱のり	
提案理由 平成9年11月6日(木)		12月5日・12日 お笑い大会	
<p>1人でもいじめや仲間はずれをなくし、学校の全児童が、明るく、笑い声のたえない学校にしたい。勉強している時の重苦しい空気を笑いでふきとばすぐらい、楽しい学校にしたい。</p> <p>さらに、児童会のことでも理解してもらい、協力してもらえらると思ひ、児童会まつりを提案しました。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童が楽しめる遊びをする。 ・内容をポスターやビデオ放送をし、参加者を集める。 ・跳び箱のりは、跳び箱を1段用意して、その上に何人のれるか、人数をきそう。 ・児童会まつりの運営は、実行委員を募集して行なう。 	

表9 児童会まつりの議案書

反省 ○○○ 前もって意見をまとめた。 人の意見を真剣に聞いた。 みんなと協力して話し合った。	感想	話し合うこと 学級(自分)の考え 決まったこと	話し合いの めあて 自分の意見をしっかりと持って、必ず意見を発表しよう。	提案理由 一人でもいじめや仲間はずれをなくし、学校の全児童が、明るく、笑い声のたえない学校にしたい。勉強している時の重苦しい空気を笑いでふきとばすぐらい、楽しい学校にしたい。 さらに、児童会のことでも理解してもらい、協力してもらえらると思ひ、児童会まつりを提案しました。	日時	十一月六日 木曜日
					議題	児童会まつりをしよう
					時間	三時十五分
					場所	児童会室


11月4日	運営委員会 児童会まつりの内容を2週間は続けて行なうことに決定	代表委員会の係担当者と仕事内容の確認をする。 代表委員会での議題、提案理由、話し合いのはしらを確認する。 児童会まつりの内容を毎週変更し、企画していくのは困難であることを助言する。
11月6日	第13回代表委員会 児童会まつり承認 児童会まつり実行委員会設置の承認 実行委員募集の呼び掛け 第13回代表委員会反省会	児童会まつり、および実行委員会は希望者による運営と参加であることを、代表委員に確認する。 代表委員会の議事進行に関する反省と評価をする。 今後の計画を確認する。
11月7日	児童会まつり実行委員会 今後の計画、係分担、仕事内容を決定	初めて集まった実行委員の緊張をとるように注意をはらう。 児童会まつりと実行委員会は、希望者による活動であることを確認する。 児童会まつりの趣旨を確認する。
11月10日	運営委員会 児童会まつり担当役員より応援要請 運営委員会で応援要請を受ける 児童会まつり実行委員会 応援する児童会役員と合同打ち合せ	担当役員と他の役員との意志疎通を十分とれるように配慮する。 児童会まつりの趣旨を再確認する。
11月12日	広報用ビデオ撮影	
11月13日	給食時間に広報用ビデオを流す	
11月13日	リハーサル 最終打ち合せ 最終準備	
11月14日	第1回児童会まつり ～跳び箱のり～ 第1回児童会まつり 反省会	運営がスムーズにいくように、指示を出す。 次回につながる反省の出し方を、助言する。 反省をふまえて修正計画を作成させる。
12月3日	児童会まつり実行委員会 修正案の検討	修正案で実行可能か考えさせる。
12月4日	最終準備	

写真2 運営委員会

12月5日	<p>第2回児童会まつり ～跳び箱のり～ 第2回児童会まつり 反省会 第3回児童会まつり 提案 代表委員会で提案された「お笑い大会」は企画不足のため次回に変更され、新たに「ボール持ちゲーム」を提案 内容不十分で提案者に修正案を要請 ゲーム実践のためのボールづくりは決定</p>	<p>第1回と同じ内容なので、運営を観察する。反省をふまえて、今後の対策を検討させる。提案は実行可能な内容か検討させる。前回までの反省をどのように活かすか考えさせる。</p>
12月8日	<p>運営委員会 児童会まつりを成功させるために、全面的に協力することを確認</p>	<p>修正が必要な部分を確認し助言をする。 修正案作成にあたり、他の実行委員もアイデアを出して、協力していくことを確認する。</p>
12月9日	<p>児童会まつり実行委員会 ボール持ちゲームを体験 提案を検討し、「ボール持ち」に決定 今後の計画、係分担、仕事内容を確認</p>	<p>自分たちが直接体験し、楽しい内容であるか判断させる。 提案は、実行可能な内容か検討させる。</p>
12月12日	<p>リハーサル 打ち合せ 会場設営の変更を決定 広報用ビデオ撮影</p>	<p>準備、片付け、会場を実際に行動して確認させる。 体験してみて、実行可能か検討させる。 見る人の立場に立った広報活動になるように助言する。</p>
12月15日 ～18日	<p>広報活動 給食時間のビデオ放送 ポスターの掲示 朝のあいさつ運動の中での呼び掛け</p>	<p>広報活動の必要性を再認識させる。</p>
12月17日	<p>最終準備</p>	
12月18日	<p>第3回児童会まつり ～ボール持ち～ 第3回児童会まつり 反省会</p>	<p>運営がスムーズに行くように、指示を出す。</p>



写真3 ボール持ちゲーム

4 ゲームの内容

ボール持ちのルール

- (1) 2人組をつくる。
- (2) ひとりが腕を組む(手は体につける)。
- (3) 組んだ腕にボールをのせる。
- (4) 30秒間のせ続ける。
- (5) 30秒の間なら落ととしても何回でものせられる。

5 当日の係

- (1) 総括・ (一紗)

MC (マスター・オブ・セレモニー)

①全体の動きをつかむ。

・それぞれの係が、機能しているかなどを見ていく。係は自分たちの仕事に専念しているので、総括が全体を掌握する。そして、係に指示を出す。

②会場を楽しい雰囲気をつくる。

・全体の様子や最高記録をマイクで流し、会場を盛り上げる。
・進行がスムーズに行くようにマイクで誘導し、人の流れをつくる。

- (2) 救護・整列係 (奈津美, まきこ)

①会場内の安全に対する見回りと注意をする。

・舞台や倉庫に入らないようにしたり、走っている児童に注意をする。
・ケガや事故が起こった時、教師に連絡をする。

②待機場所で整列させる。



写真4 整列係

写真5 放送係

- (3) 説明係 (未来, ゆう)

①ルールを説明する。

・ルールは、事前にビデオ放送で説明されているが、理解していない児童に説明する。特に、低学年に配慮して係を置いている。
・どこでゲームをするかどこに並ぶかなど会場案内をする。

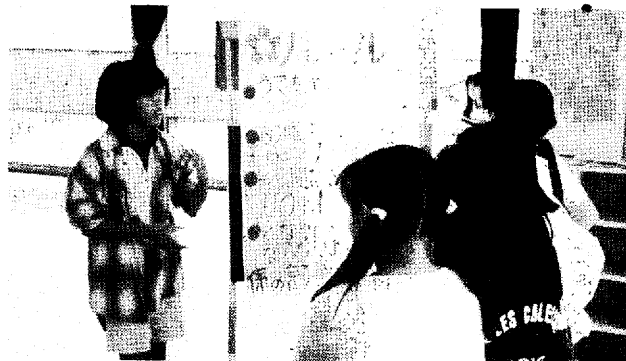


写真6 説明係

- (4) 進行係 (総括, 救護, 説明以外の
実行委員, 児童会役員)

①ゲームを進める

・10箇所に別れて、ゲームを進める。大きな声かけや低学年への配慮を忘れないように進める。
・待機している児童のことも考え早めに展開し、整列させて待機させる。
・30秒を計り、ボールの数を数えて、参加者に教える。

(進行係の声かけ例)

元気な声かけを！！

- ・こんにちは
- ・何年何組ですか？ 名前は？
- ・あと15秒, 10秒, 5, 4, 3, 2, 1ストップ
- ・記録は()個です
- ・2列に並んでください
- ・もう一回する人は、後に並んで下さい…など

- (5) 放送係 (放送委員)



①記録用のビデオを作成する。

・まつりの様子を録画する。
・参加者にインタビューをして、感想を聞く。

②会場設営をする。

・まつりに必要なマイク, テープレコーダーなどを準備する。

6 児童会まつりの展開

時間	実行委員の動き	児童の動き	指導上の留意点
0	<p>清掃終了後、すぐに会場をつくる。</p> 		<p>清掃に時間がかかっている担当者の場所をチェックさせ、準備をさせる。</p> <p>早く来た人への対応を説明係がすることを確認する。</p>
5	<p>ゲームを開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明係が説明する。 ・2人組をつくらせる。 ・2列で並ばせる。 ・ルールを確認する。 ・ゲームを進める。 ・時間を計る。 ・ボールの数を数える。 <p>安全に気をつける。</p> <p>放送係はビデオ録画と参加者へのインタビューをする。</p> <p>MCは途中経過を見ながら、会場の雰囲気盛り上げる。</p> <p>総括係が終了のベルを鳴らす。</p> <p>結果の報告の仕方を知らせる。</p>	<p>説明を聞く。</p> <p>自由に2人組をつくる。</p> <p>2列に並ぶ。</p> <p>ゲームに参加する。</p> <p>何度でも挑戦できる。</p> 	<p>参加者が少ないうちに、楽しい雰囲気をつくるように、MCに働きかける。</p> <p>待ち時間があまり出ないように進行係に円滑な運営をと働きかける。</p> <p>それぞれの係が機能するように支援する。</p> <p>安全面への気配りをする。</p> <p>運営が落ちついてくれば、指示はできるだけ総括に行なう。</p>
35	<p>教室に戻るよう声かけをする。</p> <p>担当ごとに素早く後片付けをする。</p> <p>終了</p>	<p>教室に戻って授業の用意をする</p>	<p>それぞれの係が機能しているかチェックする。</p> <p>それぞれの係どうして、連携を図る。</p>
40	<p>5校時の授業開始</p>		<p>実行委員も授業に遅れないようにする。</p>
45			

7 児童会役員の感想と考察

(1) 自主的・実践的な態度育てる。

① 第3回児童会まつりの感想

1. 工夫したところ

- ・ルールを説明する紙に工夫をこらした。漢字の上に読み仮名をつけるのはもちろんのこと、イラストをいっぱい入れてみた。イラストも、ただの絵じゃなく、ゲームをする時の姿勢やゲームのしている様子を書いてみた。
- ・大きな声でボールの数を数えた。
- ・ゲームに参加した人や待っている人たちと一緒に、時間を言ったり、ボールの数を数えたりした。
- ・並んでいる人たちと転がったボールと一緒に集めた。
- ・自分たちがやっても、楽しいボール持ちゲームを作ることができた。
- ・MCをする時、「～です。」と言うのではなく、「～です。」とのばして言う。普通に言うと、固い感じがしたし、私もあまり好きじゃなかったから変えてみた。
- ・最初、ほくの所には人が来なかった。けれども、みんなをひっかけたり、一緒に数えたりしているうちに、列ができてきた。やっぱり、みんなの気を引けば、集まるんだと思った。

2. 反省したところ

- ・待っている人たちが興奮しすぎて、きちんと並ばせることができなかった。
- ・ルールが分からない人がいた。
- ・はずかしいとか間違ったらどうしようか思っ、玄関でうろうろしていた人がいた。
- ・ルールを守らない人がいた。
- ・おにごっこやプロレスみたいなものをして、あばれている人がいた。
- ・注意をしても聞かない人がいた。
- ・やらなければならない系の仕事などは、期限を守らないといけないと思った。
- ・おしゃべりが多かったり、きちょう面に仕事

をしすぎたりして、5時過ぎまで残ったことがあった。

・まつりの時、特定の場所で座りこんで遊んでしまった。

・一番最初に提案された内容と、まつりの内容は違っていた。みんなが、熱心に考えてくれたからだと思う。

3. 次の実践に向けて意欲的なところ

・今回反省したことを、次回に活かし、より良いまつりになるように、がんばっていききたい。

・児童会まつりの目的を忘れたところがあったので、目的を忘れないことを目標にして、がんばっていききたい。

・次回は、実行委員をもっと増やしたほうがいいと思う。

・だれでも気軽に参加できるように、もっとリラックスできる場にしたいと思った。

・広報活動は、もっともっとたくさんしたほうがいいと思った。放送を聞いていない人や聞きのがした人がいないようにしたい。

・ビデオ放送で広報する時、わざとギャグを入れたり、おもしろいことをしたりして、ビデオにみんなをひきつけるようにしたら、いいと思う。そうすると、まつりの意味も分かってくれて、100人くらいは人が増えるのではないかと思った。

②一年間の児童会活動を振り返っての感想

・あいさつ運動をがんばってきました。全校児童全員が、大きな声であいさつできるようになったらいいなと思ってがんばってきました。

・Lマーク運動をがんばってきました。絵をもらうために呼び掛けを続けました。

・緑のコンクールでは、もっと呼びかけて、盛り上げていけば良かったと思っています。

・新児童会役員が、力を合わせて、楽しい企画を立ててくれると思います。

<考察>

児童会役員は、全校児童とともに「明るく、楽しい学校にする。」ことを目標に活動が続けた。その中で、学校生活の充実や向上のために全校児童で運営することや、今までの児童会活動の枠に囚われないことを、特に指導してきた。

その結果として、自分たちの思いや願いを話し、聞くことができる、役員どうしの雰囲気づくりができた。そして、感想からも見られるように、目的を考えながら、自主的に工夫をこらし、意欲的に実践し、反省を次の実践につなげていく姿勢が育てられた。

(2) 充実感・満足感を得る。

①第3回児童会まつりの感想

・人が集まるかどうか心配だったけど、400人以上の人が集まってとても良かった。特に、前は来なかった高学年も、たくさん来ていたので良かった。

・計画どおり進めることができて良かった。
・楽しそうにゲームをしてくれて良かった。
・待っている人も楽しそうに見ていたので良かった。

・応援している子もたくさんいた。
・一言で言うと、大成功。
・記録を発表するたびに、「うわー。」とか、「すごい。」とか反応してくれるのが、うれしかった。

・ルールを書いた紙の仕上がりは、けっこううまくできていたと思う。

・1回だけじゃなくて、2回も、3回もやる人がほとんどだった。

・途中で遊んでしまった時、先生に「まつりの目的は？」と言われ、反省し、そのことを忘れないことを目標に、最後まで総括の仕事が続けた。

・放送の準備に時間がかかったが、前と比べたらすごい良かった。前回の反省を活かしたからだと思う。

②一年間の児童会活動を振り返っての感想

・5年生の時、自分から知らない人にあいさつするのは、はずかしくてあまり好きじゃなかった。でも、学校全体であいさつ運動に取り組み一人ひとり元気なあいさつを交わすと、うれしくなり、「あいさつって大事だな」と思いながら、1年間続けてきました。

・あいさつ運動は、前よりもたくさんの方があいさつをしてくれるようになって、良かったと思います。

・最初のうちは、私自身はずかしくて小さな声でしか言えませんでした。けれども、だんだん慣れていくうちに、堂々と言えるようになってきました。そして今では、私たちがあいさつする前に、「おはようございます」と、言ってくれるようになりました。

<考察>

「あいさつ運動」は1年間、「児童会まつり」は5ヵ月間のように、常時活動を多く取り入れた。企画、実践、反省と繰り返し行なうことによって、実践経験を活かしながら、次の活動が展開でき、児童にとって、次々と充実感や満足感を味わえる場になっていった。

その間教師は、児童会の目的を認識させながら、児童の思いや願いを大切にす気持ち忘れず、タイミングを図りながら支援を続けた。

感想の中では、ほとんど教師の支援に関することが上がってないが、児童が、常に次の活動を意識していること、随所に工夫を加えること、全校児童、特に低学年を気にかけていることなどからも、教師の支援が、児童に伝わっていることが分かんると考える。



写真9 朝のあいさつ運動

VI 研究の成果とまとめ

1 研究の成果

(1) 児童会役員が興味・関心を持っている内容を引き出し、インフォーマルな実践の場を設定し、活動内容を企画、運営、反省と繰り返していくことによって、自主的・実践的な態度の育ちが見られた。

(2) 児童会活動を展開していく時、教師の適切な支援で、児童は充実感や満足感を得ることができ、自主的・実践的な態度の育ちが見られた。

2 今後の課題

(1) 児童会役員だけでなく、全校児童に対して、自主的・実践的な態度を育成するために、特別活動全体の見直しを図る必要がある。

(2) 特別活動だけでなく、各教科とのクロスカリキュラムの検討や、地域、家庭との連携を図るな

ど学校生活全体の中から、さらなる可能性を見いだしたい。

3 おわりに

この6カ月間、とても有意義な時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。これまでの実践を振り返り、理論を積む、とてもいい機会になりました。

研究を進めるにあたり、ご指導いただきました前田小学校の田端先生、この機会を与えてくださった玉村校長先生、特別活動主任の加島先生はじめ浦添小学校の先生方、そして浦添市立教育研究所の田中所長はじめ指導主事の先生方や所員の皆様、並びに浦添市教育委員会および関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

最後に、6カ月間ともに研究を続けてきた研究員の皆さん、ありがとうございました。

(参考文献)

文部省	小学校学習指導要領	大蔵省印刷局	1989年
群馬県教育研究所連盟 編著	実践的研究のすすめ方	東洋館出版社	1995年
木原 孝博 著	学級活動の理論	教育開発研究所	1996年
栗原 敦雄,柴沼 晶子,永井 聖二 編著	開かれた学校と学習の体験化	教育開発研究所	1992年
熱海 則夫,高岡 浩二,高岡 哲夫 編	学校週五日制とこれからの小学校特別活動	国土社	1993年
成田 國英,岡本 孝司 編	児童会活動・クラブ活動	教育出版	1991年
井上 講四 著	生涯学習体系構築のヴィジョン	学文社	1998年